**「教育研究等活動目標・計画書」作成要領**

（別表２）

**１．「重み」の記載について**

下記の表に，各評価分野に付ける「重み」を職名毎に，一定の幅を持たせて示しています。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価分野  職名 | 教育 | 研究 | 社会連携 | 管理・運営等 | 合計 |
| 教授 | ２～５ | ２～５ | １～３ | ２～５ | 10 |
| 准教授・講師 | ２～５ | ３～６ | １～３ | １～３ | 10 |
| 助教 | １～５ | ３～７ | １～３ | １～２ | 10 |

各分野の「重み」は，教員の職種，職務の特殊性，専門性等の状況に応じて，評価分野全体の合計が「10」となるように，各評価分野の「重み」を指定された範囲の整数で付けてください。

なお，「教育研究等活動目標・計画書」提出後，学系長等から「重み」の変更の指示がある場合があります（第１１－八）。

**２．「教育研究等活動目標・計画書」の記載について**

下表の評価分野・評価項目ごとの「教育研究等活動目標・計画」記載例を参考に，別紙１に記入してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価  分野 | 評価項目 | 「教育研究等活動目標・計画」記載例 |
| 教育 | 全学共通科目担当実績 | ・全学共通科目を担当する |
| 学部担当実績 | ・学部教育及び大学院教育において講義・実習等を積極的に担当する。  ・より高度な専門教育を推進する。専門教育の高度化，学際化を推進する。  ・学生の多様なニーズ，学術の発展動向等に配慮した内容の授業を行う  ・教育目標・授業計画・必要な事前事後学習の指示等を分かりやすく記したシラバスを作成し，学生に活用を促す。  ・シラバスに記載の目標，評価方法・評価基準等に基づき，厳格な成績評価を行う。  ・授業科目の教育目標を明示し，学生からの意見聴取を踏まえ，学生の学習成果の把握に努める。  ・学生の授業アンケート等を参考に授業内容の改善に努める。  ・問題発見・解決型授業，対話・討論型授業，講義や実験等の併用型授業，多様なメディアを高度利用した授業等の学習指導方法や種々の教材の開発を行う。 |
| 大学院担当実績 |
| 卒業論文等指導（留学生含む） | ・卒業研究，ゼミ等の個別教育指導の改善を行う。 |
| 修士論文指導（留学生・社会人含む） | ・大学院生（留学生・社会人含む）の受入れに努めるとともに，個別教育研究指導の改善を図る。 |
| 博士論文指導（留学生・社会人含む） |
| 論文審査（主査・副査，留学生含む） | ・関連分野だけでなく，異分野の論文審査を担当する。 |
| FD活動（学生授業評価への対応含む） | ・ＦＤ活動へ積極的に参加し，学生による授業評価等を参考にして，授業内容，方法の改善を行う。 |
| 教科書執筆等 | ・特色ある授業内容を教育資料として公開するために教科書の執筆を行う。 |
| 学生支援活動 | ・オフィスアワー等を利用し，学生指導・支援を積極的に行う。 |
| その他活動 | ・連携開設科目の担当など教学上の特例を活用する奈良教育大学との教育活動の調整や、新たな連携教育に関する企画立案を行う。  ・奈良教育大学との連携科目を開設する。  ・学問祭に科目を提供する。  ・国際戦略センターの国際交流プログラムに参画する。  ・研究倫理教育授業を担当するとともに，倫理教育教材の開発を行う。  ・研究生・特別研究学生（留学生・社会人含む）等を受け入れる。  ・国内外の共同研究や産学連携活動を通じて指導学生の教育研究指導を行う。  ・指導学生と共同で学会・シンポジウム等での発表や論文発表等を行う。  ・指導学生の留学や国際学会等での発表を支援する。  ・期限付き学内教育プログラム等において積極的に活動する。 |
| 研究 | 基本的研究活動 | ・自己の専門領域に関する学術的研究活動を行う。  ・個性的・独創的で高度な基礎研究，あるいは応用研究を推進する。  ・複雑で重要な諸課題に関する学際的研究を展開する。  ・専攻等グループでの研究を総括し，研究活動を遂行する。  ・国内，国際的にも評価される研究水準の達成に努める。 |
| 研究論文，著書等 | ・Impact factorの高い国際的学術誌に論文を発表する。  ・引用回数の多い学術的に重要度の高い論文を発表する。  ・査読付き論文を数多く発表する。  ・これまでの研究成果をまとめた著書を出版する。 |
| 研究発表 | ・国際会議・国際学会等で発表する。  ・全国レベルの学会で発表を行う。  ・国際会議等で招待講演を行う。 |
| 学会賞受賞等 | ・研究業績を社会に還元し，学会賞を受賞する。 |
| 外部研究費等の受入れ | ・科学研究費助成事業等の公募に積極的に応募し，競争的外部資金を獲得する。  ・共同・受託研究等による外部資金を獲得する。 |
| 共同・受託研究等活動 | ・国内外の共同研究を推進する。  ・産学連携による共同研究を推進する。 |
| 国際共同研究等活動 | ・国際共同研究を実施する。 |
| 国際会議等活動 | ・国際会議に積極的に参加し，国際基準の作成に貢献する。  ・国際会議等を実行委員長として奈良で開催する。 |
| 知的財産関係活動 | ・研究成果等による知的財産の創出と取得を図る。 |
| その他活動 | ・奈良カレッジズの活動に参画し、関係機関との共同研究を推進する。  ・機構内の紀要等に研究論文を発表する。  ・管理責任者となっている施設・備品の学内外共同利用推進に努める。  ・奈良女子大学プロジェクト経費等学内競争的資金の獲得を目指す。  ・期限付き学内研究プロジェクトに関する研究を推進する。  ・学内の学術研究センターに関する活動に積極的に参加する。  ・サバティカル等を利用して短期外国留学を行い，新しい学際研究を始動する。  ・学外研究者を積極的に受け入れ，共同研究を推進する。 |
| 社会連携 | 地域連携活動 | ・地域社会等との連携を図り，地域貢献活動を行う。 |
| 公的団体活動（審議会・学会役員等） | ・審議会等公的団体での活動を通じ社会貢献する。  ・学術学会の役員として円滑な学会運営に貢献することを通じ，研究者としての社会的使命を果たす。 |
| 産学官連携活動 | ・研究成果を国内外に広く発信し，知的資源の社会への還元を図る。  ・産学官連携活動に積極的に参加する。  ・地域産業や地域社会の振興・支援（COC関連事業を含む）に貢献する。 |
| 教育面（公開講座等）社会連携活動 | ・公開講座等の開設・実施に協力・貢献する。  ・高大連携プログラムに貢献する。 |
| 国際連携活動 | ・国際交流活動・事業等に協力・貢献する。 |
| マスメディア報道・出演等 | ・マスメディアを通じた情報発信により，教育・研究成果を社会に還元する。 |
| その他活動 | ・奈良カレッジズの活動に参画し、地域の活性化に資する共同研究の遂行を牽引する。  ・機構のプラットフォーム構想に参画し、機構の地域貢献に資する活動を行う。  ・「組織」対「組織」の共同研究を牽引する，または参加する。  ・学術論文の査読や学術雑誌の編集等を行う。 |
| 管理・運営等 | 部局長等 | ・専攻長・学科長・コース長等として大学の運営に貢献する。 |
| 教育研究評議員・全学委員等 | ・教育研究評議会評議員として大学の運営に貢献する。  ・センター長や機構長等として大学の運営に貢献する。  ・全学の委員会等の委員として積極的に活動し，大学の運営に貢献する。 |
| 部局・学科委員等 | ・部局・学科等の委員会委員として積極的に活動し，部局等の運営に貢献する。 |
| その他活動 | ・機構が、奈良カレッジズ連携推進センター、国際戦略センター、産地学官連携プラットフォーム、環境安全管理センターを通じて展開する事業に積極的に参画する。  ・大学や部局等が開催する研修等に積極的に参加し，自己研鑽に努める。  ・研究室の情報セキュリティの管理体制整備を進める。  ・エビデンス整備を進め，研究室の研究倫理管理を強化する。  ・学系または領域の自己評価や外部評価のための業務を担当する。 |